

地域の教育力が、子どもたちの生きる力を育む

【周防大島町 安下庄中学校区】

地域の概要

安下庄中学校区の中心である安下庄・日良居地区は三方が山に囲まれ、一方が瀬戸内海に面しています。風光明媚な地域で大島富士と呼ばれる嵩山は有名です。平素から学校・家庭・地域のつながりが強く、学校に対して非常に協力的な地域です。自然豊かで、地域の力を生かせる最高の環境です。

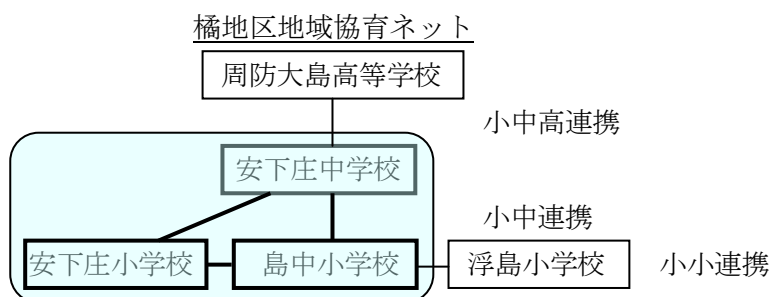
人口	2,461人	
世帯数	308世帯	
対象校 及び 児童 生徒 数	安下庄中学校	60人
	安下庄小学校	84人
	島中小学校	35人

組織の内容

平成24年度から、橘地区の小・中学校を中心とした「橘地区地域協育ネット」を立ち上げ、学校関係者、地域関係者が参加する協議会を開催し、学校と地域のつながりを一層深めていきました。

「橘地区地域協育ネット」は、3校の校長、教頭、学校支援コーディネーターと会議の運営をサポートする公民館長、社会教育主事の11名で構成しています。

地域協育ネット協議会は、年2回開催し、橘地区でめざす子ども像や各校からの情報提供や要望等について話し合いました。また、学校支援体制の一層の充実をめざして、ワールドカフェ方式による研修を実施しました。



さらに、中学校区のみならず、旧橘町時代からの交流がある浮島小学校との連携や近隣にある周防大島高等学校との連携にも取り組むことで、幅広い地域の支援を受けながら子育てをする体制が整いました。小小連携では、3校合同の授業研究会を年に2回行い、ワークショップ型の検討会を行うことで、教員同士が交流を深め、地域の子どもに身に付けさせたい力について研修を深めることができました。また、小中連携については、これまでも生徒指導面で共通理解を図ったり、学力向上の取組について協議したりしていましたが、今年度は更にこの取組を充実・発展させ、高等学校の教員による小学校の授業支援に取り組みました。



研究協議会の様子

特色・重点的な取組

○公民館の生涯学習サークルと中学生とのふれあい

橘公民館で活動している生涯学習サークルが中学生とふれあう活動が展開されました。この活動により、地域ぐるみで子どもを育てる意識が高まるとともに、地域の活性化につながっています。

○子どもの地域行事への参画による地域の活性化

中学生がボランティアとして、地域の行事に参画しました。このことで、子どもの自主性が育まれるとともに、地域の活性化につながっています。

○小中連携、高等学校との連携による学習指導の充実

小中連携により、小・中学校の教員が乗り入れ授業をすることで、学習指導を充実させるとともに児童生徒への理解を深めることができました。また、地域にある高等学校との連携を図り、高度で専門的な知識にふれることで、子どもたちは学問の奥深さや楽しさを感じることができました。

主な活動の紹介

○公民館の生涯学習サークルと中学生とのふれあい

安下庄中学校では、毎朝の読書タイムに月一回、地域の図書館から「読み聞かせ」のため、講師の方々が各学年に一人ずつ来校されました。紙芝居や実物を用いて、日本の文化やコミュニケーションの取り方などについても教えていただきました。

また、吹奏楽部の指導のために、公民館でヒップホップダンスの講座を開設している講師を招いてリズム感の養成や体力アップを図りました。生徒の力になっただけでなく、地域の方にとっては、学校が生涯学習の成果を生かす場になり、大変喜ばれました。

○子どもの地域行事への参画による地域の活性化

毎月末の日曜日には「安下庄海の市」が開催されます。今年度から、6月の市に安下庄中学校の2年生が販売スタッフとして参加し、9月の職場体験学習へ向けた心の準備をしました。地域で行われるイベントへの参加を通して、販売や接客業務の難しさや楽しさを感じ、働く心構えをもつことができました。

○小中連携、高等学校との連携による学習指導の充実

安下庄小学校では、安下庄中学校の教員に、小学校6年生に英語・理科の指導や支援をしていただきました。また、周防大島高等学校の先生にも、小学校6年生に理科の指導や支援をしていただきました。中学校においては、2学期の期末テスト週間の放課後学習会に本校卒業の高校生を迎え、ともにテスト勉強をしました。この放課後学習会では、高校生の真剣な学習態度を目の当たりにしたり、高校生の先輩に教えを受けたりする姿が見られ、密度の濃い時間を過ごすことができました。



日本の文化に触れる体験



吹奏楽部がダンスで体力アップ



接客業務へチャレンジ



ようこそ先輩 放課後学習会

成果と課題

成果としては次の2点があげられます。1点目は、公民館や地域行事との連携を通して、地域の方との交流や支援の輪が広がり、相互理解が深まったことです。2点目は、小学校において中学校や高校から専門的な知識・技術をもっている教員による指導や支援により、小学生の学力向上や学び方の変容という成果がみられたことです。支援を通して、実態を見ることで、子どもたちに共通する課題が明らかになってきました。

しかし、すべての活動が、計画的に立案・実行されたとは言えません。したがって、今後は、年度当初に各校の学校運営協議会、各機関としっかり打ち合わせを行い、年間の活動計画を立案する必要があると考えています。

今後の取組

今後も地域の核となる公民館や各種団体との連携を図り、地域と主体的にかかわることを通して地域との絆きずなをより強いものにしていきたいと考えます。また、来年度は、橘地区の特色である小中高連携を深めた事業を計画的に展開し、地域協育ネットを更に強固なものにしていきたいと考えています。